

軽症だったというし、もともとポーカーフェイスだから、見た目はまったく変わりなかった。

感染したのは不注意だったからだ、なんて批判した保護者も多かったみたい。朝会後のオンライン保護者説明会に参加したかあさんは、あきれていた。

「感染した人のことを加害者みたいに責めるのなんて、おかしいよね」と、かあさんは電話で怒っていた。

きつとみんなだれかに責任を押しつけて、共通の敵を作り上げないと、不満足なんだよ。いつまでたつても宇宙人がやってこないから、人間のだれかを標的にするしかないんでしょ。

そして、休校開始から十日が過ぎた。今日もぼくはこうして家にいる。

生徒や学校関係者は全員濃厚接触者で、同居の家族も同じだ。数日経ってからドローンで送られてきた輸入品の検査キットを音声ガイドにしたがって使い、またドローンで保健所に返却した。うちは全員陰性だったけど、二週間の隔離は規則らしい。

学校に行かなくていいならラクでいいじゃん、って思ったのは最初の半日だけで、宿題が山ほどメールされてきた。二日目からはオンライン授業も始まった。おかげでいつもよりハードになっちゃった。授業料を払っている保護者を納得させるための作戦なのかもしれない。

オンラインだと制服を着なくてもいいから、ぼくはいつも起きたまんまのスウェット。首から上しか映らないようにしているけど、先生たちはホワイトボードに書いたり何かを見せたりするから、そうはいかない。

最高だったのは、数学の先生が家の書斎でもちゃんとワイシャツとジャケットを着ていて感心した時。途中で子どもがよちよちその部屋に入ってきてちゃって、先生があわてて立ち上がったら、下はスーツのズボンじゃなくてテカテカしたジャージだったんだ。大爆笑。こわそうで苦手だったその先生に親近感を覚えた。

隔離期間中は家から一歩も出られない。おかげでぼくの世界は、いきなり十平米に凝縮されてしまった。あ、あと時々トイレとバスとキッチン。運動不足になりそうだから、用もないのに階段を上ったりおりたりしている。

学校から送信されてきたZ12情報はわかりやすかった。辛い直接死に至る病気ではないというけど、感覚や感情をつかさどる脳がやられちゃって、今のところ治る見込みはない。

人によって潜伏期間は一日から一週間とバラバラで、失う感覚や感情もちがう。ただ、臭覚や味覚がなくなったり鈍くなったりするのは、とにかく全員。七十代以上は感染しても無症状だった。うらやましい。例外をのぞくと、年齢が下がれば下がるほど、症状が重いらしい。